

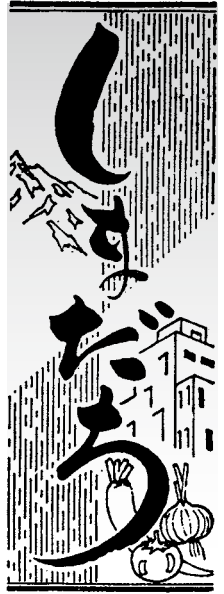


もちつき



お正月の準備で欠かせないものは餅つきですが、今は餅つき機でつくか、切り餅を買う家庭がほとんどでしょう。そんな現代でも、子どもたちが臼と杵で餅をつく機会があります。

島立児童センターでは12月5日に「冬のお楽しみ会」が開かれ、高齢者クラブの方や保護者に手伝ってもらい一斗一升の餅をつきました。



平成 28 年 1 月 1 日現在
世帯数 2,835 世帯
男 3,440 人
女 3,572 人
総人口 7,012 人

「去年より上手につけた」「早く食べたい」などの感想が聞かれる中、出来上がった餅はごま餅やきな粉餅にされて、参加者全員でいただきました。

また、島立中央保育園でも12月11日に餅つき会が行われました。

餅つきの歌を歌ったり、蒸かした状態のもち米を食べてみたりした後、餅つきが始められました。

年中組は2人一組で、年長組は1人で杵を持ち上げ、一生懸命にっていました。

二年参り



大晦日の夜から、雪が降り始め、除夜の鐘が鳴る頃にはあたり一面に白く積もりましました。

二年参りをしようと、参拝者が新年を迎えた1日未明から沙田神社に訪れ、今年1年の無事を祈るなどで、雪が降る中訪れた人たちの長い列ができ、多くの人が手を合わせ姿が見られました。

境内では、氏子の役員の方が、参拝者に御神酒を振舞い、また、破魔矢の縁起物を買う姿も見られ、とても賑わっていました。

新年祝賀会



新しい年を迎えて、各町会で行われる新年祝賀会は、元日の開催が多いようです。

三の宮町会の祝賀会も、元日の午後1時30分から公民館にて開催されました。

年頭の挨拶では、町会長から、「会員の皆さんが、この一年を明るい笑顔で健康にすごされますように」との言葉がありました。

祝電の披露、新しく会員になった家族の紹介に続いて祝宴となりました。和やかに杯を交わしあったり、久しぶりに会った方同士、新年の挨拶をされている姿が見られました。

近年、三の宮町会は、若い会員家族が増えており、この方達が誘い合って祝賀会に参加され、地域の絆が更に強まることが期待されます。

中学生地域との交流



高綱中学生と地域の人達との交流が盛んに行われている事をご存じでしょうか？

10月20日に島立公民館で、シルバー人材センターの方々と生活に役立つ縛り方を教えてもらう、ロープワーク体験が行われました。最初は、コツが掴めず苦心していましたが、何度も教わっているうちに分かってきて、出来るようになってきました。

また、11月12日に同じく公民館で、高齢者と花札を通じての交流会が行われ、テレビゲームとは違った現実でのゲーム戦が繰り広げられて大いに盛り上がり親密な交流が出来ました。

シリーズ

島立地区の四季 ⑥



新年会

村の新年会は古くから行われてきた行事ですが、昔は元旦に村人たちが集会所などで新年の挨拶を交わし、町会の総会のような形で重要事項の報告や相談、新入住民の紹介などを行った後、簡単な宴会を開きました。元旦に住民が公民館などに集まって新年の挨拶を交わし、宴会を開くという形は広く行われていますが、親睦会の色彩が濃くなって、北東で新年会に行われるダルマの福引きのように住民に親しまれているものもあります。

新年会を近隣や親族の家の持ち回りで開くことも多かったようですが、最近では温泉などを利用することが多く、範囲も主人だけでなく家族を単位とするものも多くなっています。



餅搦き

餅搦きは暮の28日か30日で、29日に搗く家はありません。昔は1戸の家で3〜5臼（1臼は4升、約6kg）を搗きましたから、子どもたちには楽しみでしたが一家挙げての大仕事でした。

最初の臼で搗いた餅で鏡餅を作り、あとは伸ばし餅にするのが普通です。松本平では丸餅にすることは少ないようです。

元旦には雑煮を作り、一家の安全多幸を祈願しますが、昔の厄病払いの願掛けで元旦には餅を食べない家は今もかなり広く見られます。

近年は餅搦きも多くは機械搦きになり、臼を使った昔ながらの餅搦きはごく少なくなっています。また、子ども達の餅搦きの楽しみは学校や保育園の餅搦き大会に移ってしまいました。



注連縄作り

島立でも正月に注連飾りをしない家がありますが、多くの家では注連飾りは欠かせないものになっています。注連縄の縄は左縄で、たいた藁は使いませんが、慣れないと作るのには難しいのですが、近年まではとくに農家では自分の家で作るものが多く、お爺さんたちの中には芸術的な注連飾りを作る名人というよう人もありました。今では自分の家で作る人は農家でもごく少なくなり、縄手あたりで買って来て飾る家庭が多くなりました。

近年は高齢者クラブなどで講習会を開いて伝統の保存に努めている所も多くなりましたが、きれいに作ることは難しく、玄関や神棚に飾れるような注連縄が作れるようになるのは大変です。



11月18日、心代会主幹によるお観音様の祭典が小柴公民館にて行われました。午後7時小雨の降る中、子供から大人まで約50名の住人が公民館敷地内のお堂前に集まり、島内高松寺ご住職による読経でお参りを済ませました。

その後公民館大広間に移り、一周約10mある数珠の輪の中に全員が入り数珠を回しながら「南無阿弥陀仏」の念仏を唱えました。ご住職から数珠を皆で回す意味は、一人でも協力しないと回らない、そして最初に自分が握っていた数珠は多くの人の手を経てやがて自分の元に戻って来ると、「和と助け合い」の教えでした。最後に役員の方々による団子やミカンが参加者に投げられ、今年1年の無病息災を感謝しました。

小柴町会お観音様の祭典



ソフトバレーリーグ戦

皆さんご存知でしょうか？

この時季毎週金曜日に島立小学校体育館で熱い戦いが繰り広げられていることを・・・。

その競技は「ソフトバレーボール」

この日も中学生からベテラン迄約50人の選手が集まり身体を動かしています。さあ試合開始のホイッスルです。サーブ・レシーブ・トス・スパイク！ソフトバレーと侮るなかれ、そのスピードと迫力は体育館中を熱気で包み込みます。

この「島立ソフトバレーボールリーグ戦」は9年の歴史があります。現在9チームが参加し総当たり戦で試合が行われています。

参加選手は、世代を超えて一緒に楽しめ、コミュニケーションと健康増進を図れて有難いと話していました。